

---

## 第97回日本言語学会大会(10月22、23日、於神戸外国語大学)

伊藤 克敏

### —設立50周年記念—

1938年に新村出氏を会長として日本言語学会が設立されてから半世紀が経ったのを記念して、初日に式典が行われた。

まず、日本音声学会会長の平山輝男都立大学名誉教授より祝辞があり、続いて元会長で文化勲章を受章した服部四郎東大名誉教授の「言語の構造と体系」と題する記念講演が行われた。子どもの言語習得に関心を持つ氏は、先ず子どもは、概念(意味)を習得し、次いでそれをことば化する、という認知発達優先の考え方を打出した。また、アンカラ在住の12歳のお孫さんが夏休みで日本に滞在した際、日本語を教えたが「いただきます」「ありがとうございます」といった定型表現しか出なかった。しかし、アンカラに帰ってから「違うよーだ」「何だよー」、「うるさい」といった感情表現や、「いたくない」「ちょっと待って」「お腹がすいた」

等、かなり多くのことばが出てきた、という報告は興味深かった。言語習得の初期に、言語能力を養成する「沈黙の期間」(silent period)のあることが最近、米国の第二言語習得の研究で明らかにされており、その実証となる報告であった。

続いて、「中央アジアの文献言語と言語接触」と題して四人によるリレー講演があり、チベット語、ソグド語(死語)、ウィグル語、蒙古語の文献を通して中央アジアの言語間の言語接触、借用語等についての興味深い発表があった。

従来は珍しい言語の記述研究についての研究発表が主であったが、近年、言語障害、言語習得、英語学、社会言語学等、多様化していることは好ましい傾向である。特に、敬語行動に関する日本語、韓国語の比較、タイ、中国、アメリカ等、国際比較の発表は興味深かった。

来年度の春季大会(6月上旬)は本学で開催さ

れることになり、筆者は大会運営委員長として役 協力を切にお願いする次第である。  
員会と懇親会で挨拶をさせられた。所員諸氏の御

---